

明るい女性部が地域を明るくする



全国組織化40周年を迎えた
全女性連 **及川ユキ子** 会長
に聞く

商工会女性部が全国組織化され、四〇周年という節目の年を迎えました。ここまで来るには、いろいろご苦労があったと思いますが、四〇周年を迎えた感想をお願いします。

商工会女性部は多くの先輩方のご尽力により設立され、また支えていただき、四〇周年を迎えることができました。その方々にまず感謝しなければなりません。そして、この節目の年に会長として立ち会うことができ、ありがたく、嬉しく思っております。

記念事業を行うにあたっては、時代にマッチした、そして時代を先取りする事業を企画することを心がけました。一方で、社会貢献や助け合いの精神については、四〇年変わらず持ち続けた女性部ならではの良いところですので、この部分も大事にしていくことも必要であると思っております。

三五周年の時も実施しましたが、今回も「一〇〇

円玉募金」を行いました。昨年四月から七月にかけて、社会貢献や助け合いの精神から部員一人一〇〇円の募金を行いました。おかげさまで、一五五三万八七六円もの温かい支援が集まりました。短期間にこんなに多くの女性部員さんの協力を得られたことは、結束力の強さをあらためて感じたところです。

具体的な、どのような記念事業に取り組んでいるのですか。

まず一つは、集まった募金の一部を平成十四年から行っている「女性の創業等支援助成金」として活用します。創業を目指す女性に対して、一件あたり五〇万円を限度に助成します。今回は全体で六件、総額三〇〇万円の助成を行います。大変好評で、先の四〇周年記念式典でも活動報告をしていただきましたが、どれも素晴らしい事例で、私も非常に感動しました。

地域の活性化にもつながる事業ですので、今後とも継続して実施するために事業資金に充当します。

ここ数年、自然災害が続いていますので、女性部としても、被災した人たちを支援していくため、募金の一部を「災害基金造成基金」として積み立て、万が一大きな災害が起きた時に、被災者の人たちをすぐに支援できるようにしようと考えています。

子育て支援事業も非常に大事なテーマです。地域では少子・高齢化は非常に深刻な問題ですので、子育て支援に取り組んでいる女性部を応援していこうと思います。将来的にはこの事業がきっかけとなって、子育て支援が女性部の中でも広がりをもってい

ただければと思っています。

そのほか、募金の中から、社会貢献事業として日本赤十字社と国土緑化推進機構に寄付をしました。

また、全国の女性部員から公募して、女性部のロゴマークもつくりました。これからあらゆる場面で活用していただきたいと思います。

今、地方が疲弊しています。次の五〇周年に向け、女性部は地域でどのような役割を果たしていくべきですか。

景気が戦後最長の回復局面にあるといわれていますが、地方、とりわけ小規模企業にとってはまだまだ実感できません。むしろ少子高齢化や過疎といった問題が深刻化しています。大型店の進出によって、地域の商店は悲鳴をあげている状況です。

このような中で、私たち女性部は子育て事業や介護分野への取り組みといった地域の方々への支援や、環境問題や住みよいまちづくりといった地域課題への対応、特に私たちは商人です。地域が抱える課題をビジネスの方法によって解決していくような、コミュニティビジネスと呼ばれる取り組みが必要ではないかと考えております。そして、明るい女性部が地域を明るくするという気持ちで活動していきたいと思っております。

これまで以上に、地域や地元の人たちと密着し、消費者としての感覚を持ち続けることが必要です。消費者の感覚を肌で知る女性部員が増えることが、自分たちのお店や事業、地域の魅力アップにつながっていくのではないのでしょうか。